

#### 4 調査事項

- 1) 現世帯に関する事項
- 2) 現世帯員の転入と移動歴に関する事項
- 3) 世帯外の親と子の転出と移動歴に関する事項
- 4) 将来の移動に関する事項

#### 5 調査の方法

この調査は、厚生省人口問題研究所が厚生省大臣官房統計情報部、都道府県、政令指定都市および保健所の協力を得て、国民生活基礎調査と同時に実施する。

調査票の配布・回収は調査員が行い、調査票への記入は世帯主の自計方式による。

#### 6 集計および結果の発表

集計は厚生省人口問題研究所が行い、結果は昭和62年3月ころに公表の予定である。

### 日本人口学会第38回大会

日本人口学会（会長：小林和正日本大学人口研究所教授）の第38回大会は、昭和61年6月7日（土）と8日（日）の両日にわたり、駒沢大学（大会運営委員長：上坂修夫駒沢大学経済学部教授）で開催された。約100名の会員参加の下に活発な質疑応答および討論が展開され、2日間の大会日程を終了した。

大会プログラムは下掲のとおりであるが、本年は学会役員の改選期にあたり、大会直前に行われた選挙によって新役員（理事・監事）が選出され、新理事会の互選により畑井義隆氏が新会長に推薦され、会員総会において承認された。なお、かねて辞意を表明されていた小林会長は、永年同学会に尽くされた功績をたたえられ、理事会において名誉会員に推薦され、総会において承認された。

新任された役員（任期2年）を示すと次のとおりである（常務理事は会長指名）。

会 長	畑 井 義 隆	（明治学院大学経済学部教授）
常務理事	村 松 稔	（埼玉県立衛生短期大学学長）
”	岡 崎 陽 一	（日本大学法学部研究所教授）
”	濱 英 彦	（成城大学経済学部教授）
”	吉 田 忠 雄	（明治大学政治経済学部教授）
”	山 口 喜 一	（人口問題研究所人口情報部長）
理 事	江 崎 廣 次	（福岡大学医学部教授）
”	安 川 正 彬	（慶応義塾大学経済学部教授）
”	岡 田 實	（中央大学経済学部教授）
”	河 野 稠 果	（人口問題研究所長）
”	石 南 國	（城西大学経済学部教授）
”	大 淵 寛	（中央大学経済学部教授）
監 事	河 邊 宏	（人口問題研究所人口政策研究部長）
”	兼 清 弘 之	（明治大学政治経済学部教授）

研究報告会において行われた報告の題名および報告者を掲げると次のとおりである。

第1日（6月7日）

#### ○自由論題報告

1. 出生力媒介変数について—日本の事例研究—……………大塚 友美（日 本 大 学）
2. インド都市部における出生力—デリーの事例—……………西川由比子（アジア人口・開発協会）
3. 出生力経済理論の新動向……………大淵 寛（中 央 大 学）
4. 日・英の男女別生命表の比較的考察……………飯淵 康雄（琉 球 大 学）
5. 1965年配偶関係別生命表（改作）……………山本 文夫（中 村 学 園 大 学）

6. 有配偶女子の雇用歴—「家族周期と女子の就業行動に関する人口学的調査」の結果から—……………中野 英子 (厚生省人口問題研究所)  
山本千鶴子 ( " )
7. 雇用調整パターンの国際比較……………水野 朝夫 (中央大学)
8. 高齢・若年従属負担とコミュニティ・ケアシンボジウムでの問題提起への資料提供として……………岡田 真 (駒沢大学)
9. 人口高齢化と従属負担……………森岡 仁 (駒沢大学)
10. 中国の人口政策……………黒田 俊夫 (日本大学)
11. 多次元人口過程の安定分布について……………稲葉 寿 (厚生省人口問題研究所)
12. ロジスティック曲線の生成機構……………鈴木 啓祐 (亜細亜大学)
13. 人口学におけるSpline関数の利用……………南條 善治 (福島県立医科大学)
14. 数理人口学の課題……………河野 稠果 (厚生省人口問題研究所)
15. 人口構造と疾病……………倉科 周介 (東京都臨床医学総合研究所)
16. 死亡の変化とその人口構造への影響……………高橋 重郷 (厚生省人口問題研究所)
17. 厚生行政基礎調査に基づく出生タイミングの計測……………伊藤 達也 (厚生省人口問題研究所)
18. 先進諸国における結婚の将来……………小島 宏 (厚生省人口問題研究所)
19. 日本人女子コウホートの結婚と出産のパターン……………渡邊 吉利 (厚生省人口問題研究所)
- 共通論題〔A部会〕「幕末・明治期の都市化と人口」
- <組織者・座長> 小林 和正 (日本大学)
- A-1. 前近代日本の都市の人口維持機構……………鬼頭 宏 (上智大学)
- <討論> 大淵 寛 (中央大学)
- A-2. 近世都市労働市場における二重構造の形成とその人口学的帰結……………齊藤 修 (一橋大学)
- <討論> 皆川 勇一 (千葉大学)
- A-3. 明治期における日本の都市人口……………大友 篤 (宇都宮大学)
- <討論> 河邊 宏 (厚生省人口問題研究所)
- 第2日 (6月8日)
- 共通論題〔B部会〕「結婚と家族の人口学」
- <組織者> 阿藤 誠 (厚生省人口問題研究所)
- <座長> 坪内 良博 (京都大学)
- B-1. 結婚市場とNUPTIALITY……………安蔵 伸治 (明治大学)
- <討論> 伊藤 達也 (厚生省人口問題研究所)
- B-2. 初婚年齢の経済学的分析……………松下敬一郎 (厚生省人口問題研究所)
- <討論> 山口三十四 (神戸大学)
- B-3. 世帯構造行列法による規模別世帯数の推定……………廣嶋 清志 (厚生省人口問題研究所)
- <討論> 花田 恭 (厚生省年金局)
- 自由論題報告
20. 最近におけるわが国の国内人口移動の決定因子……………小川 直宏 (日本大学)
21. 1975年および1980年都道府県別人口の再生産率  
—新しい計算方法を用いて—……………重松 峻夫 (福岡大学)  
南條 善治 (福島県立医科大学)  
吉永 一彦 (福岡大学)  
久永富士朗 ( " )
22. 江戸末期における一農村人口の特性……………石原 正令 (関東学園大学)
23. 明治時代人口の推計……………岡崎 陽一 (日本大学)
24. マルサス「人口論」におけるJ. ステュアート……………柳田 芳伸 (関西大学)

- シンポジウム「我が国は高齢化を支えられるか」
- |              |      |                    |
|--------------|------|--------------------|
|              | 〈座長〉 | 河野 稠果 (厚生省人口問題研究所) |
|              |      | 大淵 寛 (中央大学)        |
| 1. 人口学的観点から  |      | 嵯峨座晴夫 (早稲田大学)      |
| 2. 経済学的観点から  |      | 小川 直宏 (日本大学)       |
| 3. 社会保障の観点から |      | 丸尾 直美 (中央大学)       |
| 4. 福祉の観点から   |      | 岡田 真 (駒沢大学)        |
|              | 〈討論〉 | 江見 康一 (帝京大学)       |
|              |      | 岡崎 陽一 (日本大学)       |

第39回大会は神戸大学において開催される予定である。

(清水浩昭記)

## 国際人口学会「出生力・家族計画の比較分析に関する委員会」

国際人口学会 (I U S S P) は、1985年の総会 (フローレンス) において、M. Livi-Bacci新会長の下で新しいメンバーによる各種委員会を発足させた。「出生力・家族計画の比較分析に関する委員会 (C C A F F P)」はIqbal Alam (E S C A P人口部) を委員長とする9人のメンバーからなり、フローレンスでの第1回会議に続き、本年5月21日 (水) ~23日 (金) の3日間ベルギーのリュージュにおいて第2回の会議を開催した。会議には、I U S S P副会長のW. プラスの他、関連3団体の代表が参加した。本研究所からは阿藤誠人口動向研究部長が出席した。

会議の主たる目的は、今後数年間に委員会が開催するセミナーの企画案 (中心テーマ、部会テーマ、報告者の選定) の作成にあった。会議の要点は以下のとおり。

(1) 「出生力の生物医学的決定因とその人口学的含意」に関するセミナー：1987年春米国Johns Hopkins大学にて開催予定 (同大学との共催)。

- 主要テーマ
- ① 再生産過程と不妊
  - ② 受胎・妊娠継続過程と胎児死亡
  - ③ 分娩後の不妊

(2) 「アジアの出生力転換：多様性と変化」に関するセミナー：1988年1月バンコクにて開催予定。

- 主要テーマ
- ① 人口大国における出生力の地域差
  - ② 特定民族の出生力の多国間比較
  - ③ 社会変動と出生力の関係
  - ④ 出生力急低下の社会的影響
  - ⑤ タイの人口転換

(3) 「家族計画プログラムの管理運営問題 (仮題)」に関するセミナー：1989年に開催予定。

- 主要テーマ
- ① 政策形成のための調査研究：アジアの経験
  - ② アフリカの研究動向：家族計画プログラム展開のための健康調査からの教訓
  - ③ 家族計画プログラム策定のための調査研究からの教訓
  - ④ 人口プログラムのための組織論的研究からの教訓

(4) 「ラテンアメリカの出生力転換 (仮題)」に関するセミナー：1990年に開催予定。

- 主要テーマ
- ① 出生力転換過程の概観
  - ② 社会的、経済的、制度的転換と出生力変化
  - ③ 経済危機と出生力
  - ④ 家族計画プログラムと出生力転換
  - ⑤ 出生力の将来と出生力低下の影響

(阿藤 誠記)